

<2021年度 オリンピック・ムーブメント事業>

JOCオリンピック教室

— 実施報告書 —

福岡県 大牟田市立橋中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「オリンピック・ムーブメント事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2021年4月～2022年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



※学校の通常の授業時間に実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、
生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック** : 高平 慎士 先生 (陸上競技) 【出場オリンピック / アテネ大会、北京大会、ロンドン大会】

■ **期 日** : 2021年12月3日(金)

■ **ク ラ ス** : 2年1組 / 運動の時間

○ 自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



- ・自己紹介の後、運動の時間では、オリンピックバリューの「エクセレンス」「リスペクト」「フレンドシップ」の3つの価値を意識しながら、楽しみながら一生懸命参加してほしい。座学の時間では、詳しくオリンピックバリューを考えていきたいと伝え、授業の目的を確認。
- ・準備体操を行った後、2種目の準備運動を行い、1つ目は、2人一組での体を使ったじゃんけん。2つ目は、2列に並んで向かい合い、それぞれの列に名前を決め、掛け声のあった方の生徒が向かい合っている生徒からタッチされないように逃げる追っかけこゲームを行った。

○ 主運動 等



- ・主運動として、ボール取りゲームを実施。
中央のボールを囲うように四隅にフラフープを設置し、ステージ側は作戦・休憩スペースとした。6班に分かれ、4班がボール取りゲーム、2班が作戦・休憩タイムとなるようにローテーションを組み、各班6回×2セット行った。
ボール取りゲームは自陣のフラフープ内にボールを3つ集めた時点で終了とした。



- ・運動の時間を振り返り、運動の得意、不得意や男女の比率等の違いがある中、どのようにすれば勝てるのかを考えていた。座学の時間では、班の皆で主運動に取り組んだ中で感じたオリンピックバリューの「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」について、自身の経験を話しながら、もう少し掘り下げて考え、皆で意見を発表する時間にしたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 高平 慎士 先生 (陸上競技) 【出場オリンピック / アテネ大会、北京大会、ロンドン大会】

■ **期 日** : 2021年12月3日(金)

■ **ク ラ ス** : 2年1組 / 座学の時間

○ 自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



・北海道の夏と冬の温度差が80度にもなる地域で生まれ育ったと自己紹介。1996年アトランタ大会の陸上競技をテレビで見て、将来はこのような舞台で走りたと思ったのが、オリンピックを目指すきっかけとなったと話した後、2008年北京大会時の映像を見せ、この時は銅メダルを獲得したが、10年後に金メダルのチームがドーピング違反でメダルをはく奪され、繰り上げにより銀メダルとなった。メダルの繰り上げがあったことで多くの大切なことに気づけたと伝える。

○ 個人ワーク ~ グループワーク 等



発問：運動の時間に感じたオリンピックバリューを振り返り、自分が体育の先生だったら、どのようにオリンピックバリューを感じる工夫ができるかを考えよう。
 発表：エクセレンス：「協力しながら楽しむこと」「皆が楽しめるように積極的に参加すること」等
 フレンドシップ：「作戦を話し合う時間を作る」「声掛けを増やす」等
 リスペクト：「相手チームのよいところをみつけること」「相手を労わる」等



・座学の時間を振り返り、3つの伝えたいこととして、これからの生活の中で大事にしたいこと、夢中になれることを見つけてほしい。これからの生活で環境が変わることもあると思うが、臨機応変に対応して生活を送ってほしい。皆が今見ている景色を絶対に大事にしてほしい。皆の無限の可能性をどこかで発揮して、自分自身が将来どのような大人になりたいか、日々考えながら過ごしてほしいと話し、授業終了。

■オリンピック：高平 慎士 先生（陸上競技）【出場オリンピック／アテネ大会、北京大会、ロンドン大会】

■期 日：2021年12月3日（金）

■ク ラ ス：2年2組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



- ・自己紹介の後、運動の時間では、オリンピックバリューの「エクセレンス」「リスペクト」「フレンドシップ」の3つの価値を意識しながら、楽しみながら一生懸命参加してほしい。座学の時間では、詳しくオリンピックバリューを考えていきたいと伝え、授業の目的を確認。
- ・準備体操を行った後、2種目の準備運動を行い、1つ目は、2人一組での体を使ったじゃんけん。2つ目は、2列に並んで向かい合い、それぞれの列に名前を決め、掛け声のあった方の生徒が向かい合っている生徒からタッチされないように逃げる追っかけこゲームを行った。

○主運動等



- ・主運動として、ボール取りゲームを実施。中央のボールを囲うように四隅にフラフープを設置し、ステージ側は作戦・休憩スペースとした。6班に分かれ、4班がボール取りゲーム、2班が作戦・休憩タイムとなるようにローテーションを組み、各班6回×2セット行った。ボール取りゲームは自陣のフラフープ内にボールを3つ集めた時点で終了とした。



- ・運動の時間を振り返り、いかに自陣にボールを早く集めることができるのかをしっかりと考えていた。座学の時間では、班の皆で主運動に取り組んだ中で感じたオリンピックバリューの「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」について、自身の経験を話しながら、もう少し掘り下げて考え、皆で意見を発表する時間にしたい。運動の時間を通して感じ取ったことを書き出す時間も設けるので、休憩時間の間に頭の中を整理しておいてほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 高平 慎士 先生 (陸上競技) 【出場オリンピック / アテネ大会、北京大会、ロンドン大会】

■ **期 日** : 2021年12月3日(金)

■ **ク ラ ス** : 2年2組 / 座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



・北海道の夏と冬の温度差が80度にもなる旭川市で生まれ育ち、高校時まで旭川市に過ごし、大学進学で千葉県に移ったと自己紹介。
 ・オリンピックに3大会出場した経験をもとに感じたオリンピックバリューを伝えていくが、ただ聞くだけではなく、今後、日頃の生活の中や、学校生活、部活動等を通して、自分の身近にあるオリンピックバリューを見つけることができるように、話を聞いて感じ取ったことを整理しながら聞いてほしいと授業の目的を確認。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



発問：運動の時間に感じたオリンピックバリューを振り返り、自分が体育の先生だったら、どのようにオリンピックバリューを感じる工夫ができるかを考えよう。
 発表：エクセレンス：「次の人が早く取りにいけるよう素早く動く」「皆で声を掛け合いながら楽しむ」等
 フレンドシップ：「皆でしっかり話し合い、友情を深められた」「相手のことを考える」等
 リスペクト：「自分が勝っていても相手が勝っていても皆で喜ぶこと」「各チームの動きを取り入れる」等



・座学の時間を振り返り、3つの伝えたいこととして、これからの生活の中で大事にしたいこと、夢中になれることを見つけてほしい。これからの生活で環境が変わることもあると思うが、臨機応変に対応して生活を送ってほしい。皆が今見ている景色は今しか見ることができない景色なので、絶対に大切にしてほしい。皆の無限の可能性をどこかで発揮して、自分自身が将来どのような大人になりたいか、日々考えながら過ごしてほしいと話し、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■ 記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



■ 修了証贈呈

